



中域ディスクドッジトーナメント
2025年度 小学生関東王座決定戦

実施報告書

一般社団法人 日本ドッジビー協会



【大会概要】

名称 中域ディスクドッジトーナメント 2025年度 小学生関東王座決定戦
日時 2026年(令和8年)3月27日(金曜日) 10:00~16:00
場所 東京武道館 〒120-0005 東京都足立区綾瀬 3-20-1
主催 一般社団法人日本ドッジビー協会
後援 東京都
協賛 文化シャッター株式会社
株式会社ラングスジャパン 株式会社クラブジュニア



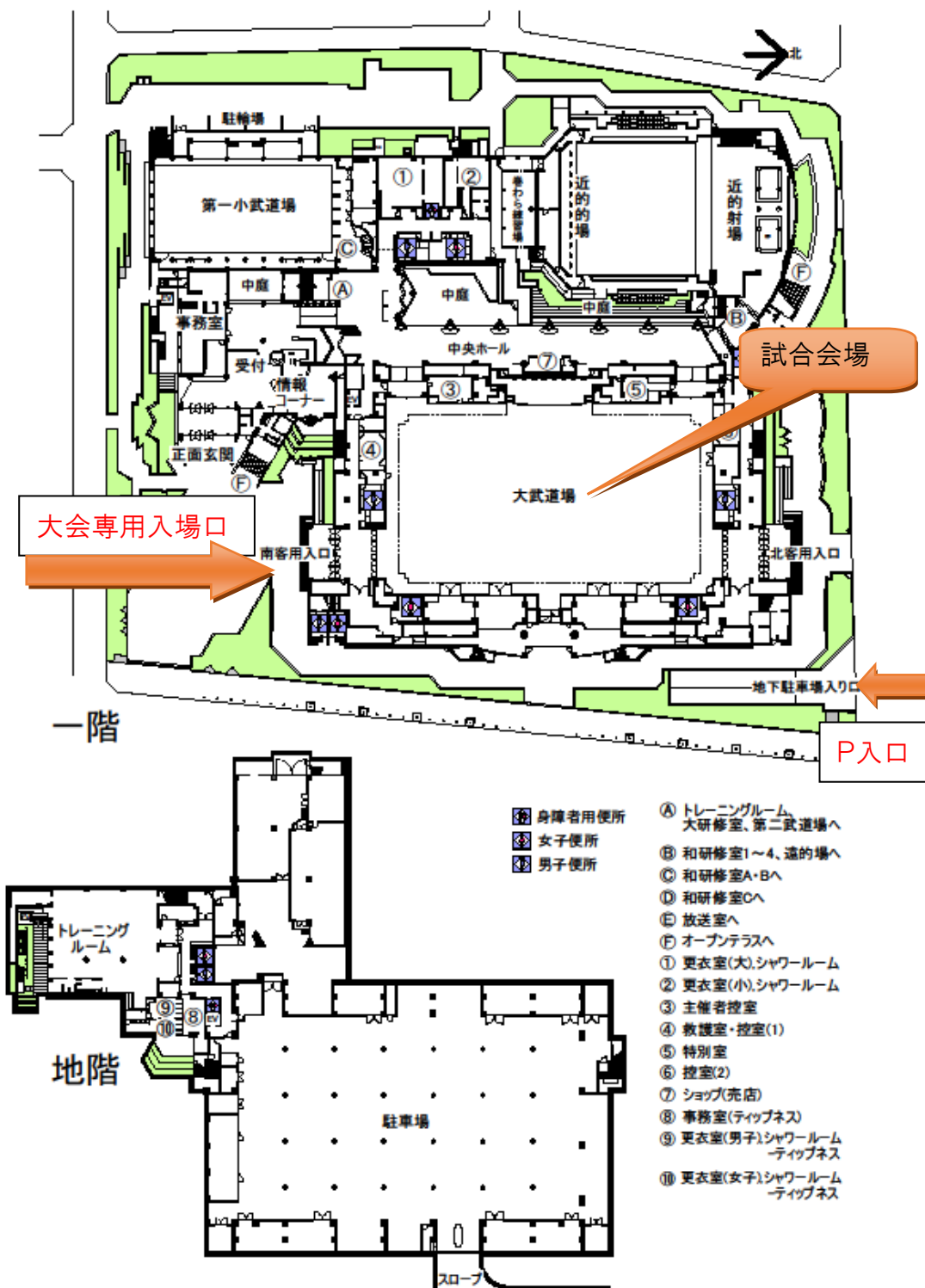
【参加チーム一覧と対戦組合せ】

- 12チーム、149名。(予選はA/B/C/Dの4リーグ)

リーグ	チームNO	チーム名	人数
A	1	峡田ブルー	10
	2	west6	11
	3	お茶の水 KSC	11
B	4	ドリーム☆ファイターズ next	11
	5	たいらフォーティーン	13
	6	国領ゴリラパワー4th	20
C	7	West6Jr	13
	8	上小スター	13
	9	ドリーム☆ファイターズ	11
D	10	峡田ブラック	11
	11	M.D.C ペディ	12
	12	染地レジェンドスター	13

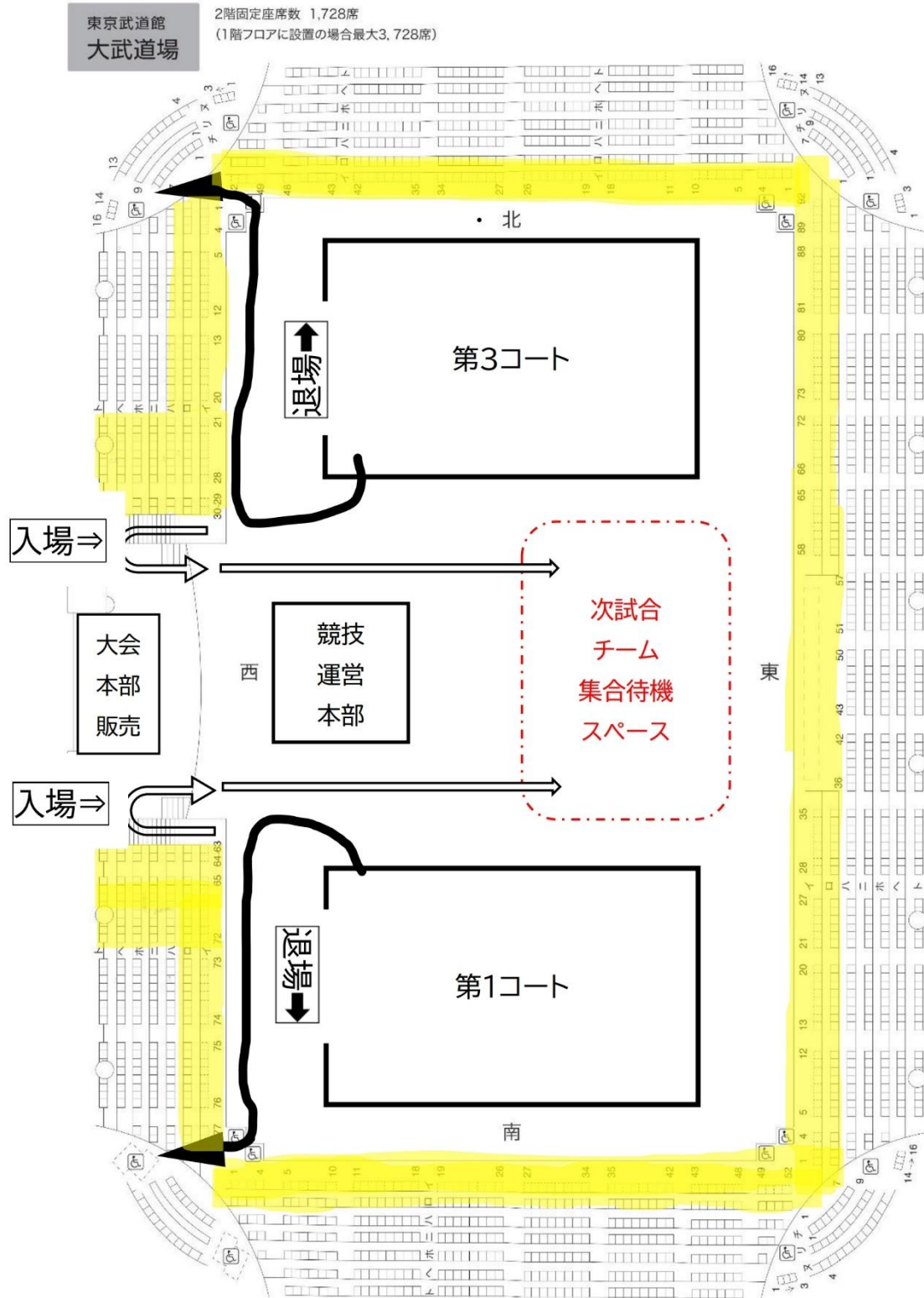
- 帯同審判員(副審) 12チーム、16名。チーム引率者・保護者 約80名。
- 大会運営スタッフ:23名。
合計:約250名のイベントとなりました。

【会場全体図】



【アリーナ・客席の配置図】

選手の**入場**⇒ と **退場**⇒ のルート ~ **今大会でのアリーナ入・退場は一方通行です。**
観客・選手の控えスペースとしての占有を禁止するエリアです。



【大会結果】

最終順位

順位	チーム名
ドッチビーマインド アワード	ドリーム☆ファイターズ next
優勝	west6
準優勝	国領ゴリラパワー4th
第3位	ドリーム☆ファイターズ
第4位	上小スター
第5位	染地レジェンドスター
第6位	峡田ブルー
第7位	峡田ブラック
第8位	たいらフォーティーン
第9位	お茶の水 KSC
第10位	M.D.C ペディ
第11位	ドリーム☆ファイターズ next
第12位	West6Jr

予選リーグ

Aリーグ	峡田ブルー	west6	お茶の水KSC	勝点	得点	失点	得失点	順位
峡田ブルー		5-13	12-4	3	17	17	0	2
west6	13-5		16-2	6	29	7	22	1
お茶の水KSC	4-12	2-16		0	6	28	-22	3

Bリーグ	ドリーム☆ファイターズnext	たいらフォーティーン	国領ゴリラパワー4th	勝点	得点	失点	得失点	順位
ドリーム☆ファイターズnext		12-12	5-12	1	17	24	-7	3
たいらフォーティーン	12-12		11-12	1	23	24	-1	2
国領ゴリラパワー4th	12-5	12-11		6	24	16	8	1

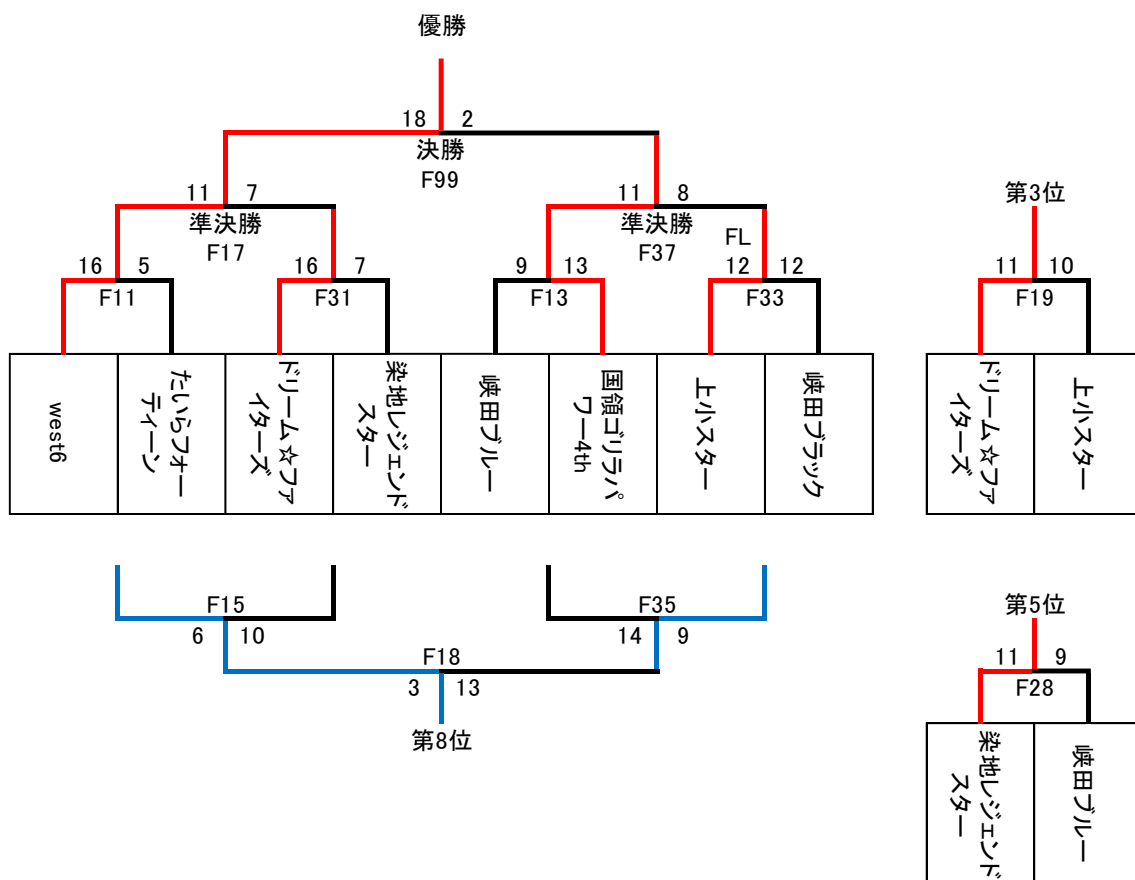
Cリーグ	West6Jr	上小スター	ドリーム☆ファイターズ	勝点	得点	失点	得失点	順位
West6Jr		3-15	6-15	0	9	30	-21	3
上小スター	15-3		7-15	3	22	18	4	2
ドリーム☆ファイターズ	15-6	15-7		6	30	13	17	1

Dリーグ	峡田ブラック	M.D.Cペディ	染地レジェンドスター	勝点	得点	失点	得失点	順位
峡田ブラック		13-5	10-9	6	23	14	9	1
M.D.Cペディ	5-13		4-14	0	9	27	-18	3
染地レジェンドスター	9-10	14-4		3	23	14	9	2

順位決定リーグ

順位決定リーグ	お茶の水KSC	ドリーム☆ファイターズnext	West6Jr	M. D. Cベディ	勝点	得点	失点	得失点	順位
お茶の水KSC		11-12	14-4	10-8	6	35	24	11	9
ドリーム☆ファイターズnext	12-11		10-9	11-13	6	33	33	0	11
West6Jr	4-14	9-10		7-10	0	20	34	-14	12
M. D. Cベディ	8-10	13-10	10-7		6	31	28	3	10

決勝トーナメント



【競技方法／ルール】

◇選手構成:小学生／学年・性別は不問。人数は最低10名、上限は20名。

◇ルール:日本ドッチビー協会制定の公式ルール。

◇試合時間:3分30秒の前・後半でおこないます。

◇試合ディスク:公式ミカサモデル【250】Official RipStop。

◇予選リーグ

3チームの総当たり戦として各チーム2試合をおこない、勝点で順位をつけます。

勝者は勝点3, 同点は引分けで両チーム勝点1、敗者は0

で勝点を集計します。

予選4リーグの各1位と2位チームが決勝トーナメントに進出します。

3位チームは、順位決定リーグに進みます。

◇予選リーグ戦の順位決定は以下の優先順で決定します。

- 1)勝点の大きいチーム
- 2)得失点(総得点数マイナス総失点数)の大きいチーム
- 3)総得点数の多いチーム
- 4)総失点数の少ないチーム
- 5)直接対決での勝利チーム
- 6)ディスクフリップをおこない、権利を得たチームを上位とします。

◇ドッジビーマインドアワード

ドッジビーマインドを最も体現しているチームを、ドッジビーマインドアワードとして表彰いたします。

主審・副審が以下の項目を評価します。

「ルールの理解/フェアプレー/相手への敬意/ジャッジへの敬意/チーム総合」

各項目の配点は1～5点。できている基準点は3点です。1試合あたりの平均点が最も高いチームを表彰します。

【ドッジビーマインド】

DBJA は、ディスクドッジに関わるすべての皆様と共に、スポーツを通じて互いを尊重し合い、誰もが安心して楽しめる場を創り上げていくことを目指しています。この想いを「ドッジビーマインド」と名付け、ここに宣言いたします。

年齢や性別に関わらず、すべてのプレーヤーが共にコートに立ち、スポーツの魅力を分かち合う——その実現のために、私たちは共に力を合わせていきます。

「ドッジビーマインド」には、以下のような心構えが含まれています。

- ✓ 試合は、選手・審判・関係者が協力して築くものであり、すべての人が敬意を持って関わること。
- ✓ ルールを理解し、フェアプレーの精神に則って、気持ちよくゲームをつくりあげること。
- ✓ 内野選手は、ディスクが当たった自覚がある場合、笛の有無に関係なく自発的に申告して外野に出るといった誠実な姿勢を持つこと。
- ✓ 相手選手に対して、挑発的な態度や発言をせず、クリーンなプレーを心がける

こと。

- ✓ 時間稼ぎなどの意図的な行為を避け、常に正々堂々としたプレーを大切にすること。
- ✓ ベンチや観客席においても、判定への不満を表すのではなく、選手を応援し、ポジティブな雰囲気と一緒に作っていくこと。

この「ドッチビーマインド」を胸に、私たちはプレーヤー、審判、運営関係者、そして観客の皆様と共に、健全で心地よい大会を創り上げてまいります。

【帯同審判について】

本大会では、各チームの引率者／保護者より「線審を1名」選出していただき、自チーム以外の試合の線審をご担当いただきました。

写真は当日ブリーフィングの様子。



【参加賞／表彰】

△参加賞

・ドッチビーロゴ入りのオリジナルリフレクター

・プロ野球選手名鑑2026
(文化シャッター株式会社様
協賛)



△表彰

優勝／準優勝／第三位／ドッチビーマインドアワードの4チームを表彰し、主催者のDBJAより表彰状を贈呈

副賞として

協賛／クラブジュニア様より～市販ドッチビーディスクを順位別に配分贈呈

協賛／ラングスジャパン様より～優勝チームにビーザック当日参加選手全員に贈呈



協賛／文化シャッター様より～

優勝チームにドッチビーロゴ入り金メダルを当日参加選手全員に贈呈

準優勝・第三位・ドッチビーマインドアワードチームにドッチビーロゴ入りガラス盾をチームに贈呈



【販売コーナー】

倉庫に眠っていたデッドストック品など、ドッチビー関連グッズを販売しました。



【入賞チーム】

ドッジビーマインド アワード	ドリーム☆ファイターズ next
-------------------	------------------



優勝	west6
----	-------



準優勝	国領ゴリラパワー4th
-----	-------------



第3位

ドリーム☆ファイターズ



【所感】

本大会は、毎年恒例となっている「小学生関東王座決定戦」として、今年度も多くの注目を集めて開催されました。平日開催にもかかわらず、関東各地から 12 チーム・総勢 250 名もの選手・関係者が集い、会場は朝から熱気に包まれました。その期待に応えるように、当日は予選リーグから決勝戦まで、随所で熱戦が繰り広げられ、関東のレベルの高さを改めて感じさせる大会となりました。

今回の大会は、12 月の全国大会後の開催となったこともあり、従来行ってきた「各地域大会上位チームを優先するエントリー方式」ではなく、フリーエントリー制を採用しました。スタッフ側の準備体制やスケジュール面での判断によるものではありませんでしたが、エントリー方法の変更により、混乱を感じたチームもあったことと思います。この点につきましては、主催者としてお詫び申し上げます。今後は、より分かりやすく丁寧な案内を心がけてまいります。

大会当日は、さくら舞い散る中で
の晴天に恵まれ、春らしい清々しい
雰囲気の中で試合を行うことができ
ました。選手たちの表情も明るく、
体育館には終日、元気な声と真剣な
プレーがあふれていました。

今回の大会運営における大きな
特徴は、次の二点です。

一つ目は、1 試合あたりの枠を 15
分確保し、試合前に約 2 分間のアップ時間を設けたことです。ディスクドッジ競技
のみの開催とすることで、時間的な余裕を持った進行が可能となり、選手たちも落
ち着いて集合や準備、ウォーミングアップを行うことができたように感じます。公



式 3 種目すべてを開催したいという思いはありますが、今回の時間配分は、運営側・選手側の双方にメリットがありました。今後の大会運営を考える上で、重要な参考事例として生かしていきたいと考えています。

二つ目は、帯同審判制の導入です。各チームにご協力いただき、チームから線審を出していただきました。平日開催ということもあり、スタッフ不足が懸念されましたが、この取り組みにより、審判員が適切に休憩を取りながら大会を進行することができました。ご協力いただいた各チームには、心より感謝申し上げます。今後は、さらに副審の協力をお願いするなど、範囲を広げていきたいと考えています。



このような取り組みは、より良い大会づくりにつながるだけでなく、ドッジビーマインドを競技全体に浸透させていくための大切な一歩でもあります。引き続き、皆さまのご協力をお願いいたします。

試合内容も非常に見応えのあるものでした。予選リーグから好ゲームが続き、特にBリーグでは、3チームすべてが同点や1点差の試合を重ねる大混戦となりました。激闘の末、国領ゴリラパワー4th が1位通過、たいらフォーティーンが得失点差で2位通過し、決勝トーナメントへと進出しました。



決勝トーナメントでは、上小スターが準々決勝で 12-12 の同点となり、ディスクフリップ勝負の末に準決勝進出を決めるなど、劇的な展開も見られました。準決勝では、west6 が 11-7 でドリーム☆ファイターズを下し、もう一方では国領ゴリラパワー4th が勢いに乗る上小スターを 11-8 で退け、両チームが決勝へとコマを進めました。

決勝戦は、west6 対国領ゴリラ
パワー4th の一戦となりました。前
半を 9-0 と大差で折り返した
west6 が、その後も主導権を握り
続け、最終的に 18-2 で勝利し、見
事優勝を果たしました。



本大会を通じて、各チームがドッ
ヂビーマインドを意識したプレーを
実践し、アウトを自覚した場面では、手を挙げて自発的に外野へ出るシーンが随所
に見られました。その中でも、最もドッチビーマインドを体現していたチームとして、
ドリーム☆ファイターズ next が「ドッチビーマインドアワード」を受賞しました。
小学生チームのスローカやチームワークは、年々確実に向上しています。今後も、
フェアプレーを大切にしながら、さらに質の高い素晴らしい試合が展開されること
を期待しています。

また、小学 6 年生にとっては、本
大会が小学生最後のディスクドッチ
大会となりました。この大会での経
験が、良い思い出として心に残れば
幸いです。



これからも選手、保護者や関係者
の皆様にご協力頂きながらドッチビ
ーを盛り上げてまいります。引き続
きよろしくお願いたします。